

- 1、全体の報告(成果と課題)…1
- 2、事業報告…2
  - A ボランティアセンター…2
  - B フードバンク宇都宮…3
  - C 災害救援・救援支援…7
  - D NPO活動推進センター…10
  - E とちぎコミュニティ基金…13
  - F とちぎ県北ボランティアネットワーク…27
- 3、その他の事業…
- 4、財政・組織運営…

## 1. 全体の報告 (成果と課題)

### ①独立型社会福祉事務所の開設。

#### 生活総合相談の相談員体制の強化

フードバンクと生活総合相談をセットに行うことで個別対応を行ってきたが、職員が相談対応を行ってきた。すべての相談を職員だけで対応することは困難なので、相談ボランティアの育成、配置が急務であった。十分とはいえないまでも若干名社会福祉士の有資格者や相談経験を有する相談ボランティアを配置することが可能となった。

### ②とちぎコミュニティ基金の創設

とちぎコミュニティ基金は、地域の課題を調査し必要な資源を集める一連の活動を、多様な主体の参加によって実現するコレクティブ・インパクトを狙い推進した。台風19号の被害は栃木県内でも甚大な被害をもたらした。その災害救援活動をする団体を応援するためにがんばろう栃木基金を創設し、基金を集め活動団体に対して助成した。

2017年から子どもの貧困撃退円卓会議(子どもSUNSUNプロジェクト)を宇都宮市で実施し、宇都宮市内の清原地区でも円卓会議が行われた。清原地区円卓会議はとちぎYMCAが核となり、地元自治会や社会福祉法人巻き込んで運営しており、地区円卓会議のお手本としての展開となっている。

子どもSUNSUNプロジェクト(宇都宮)は総会、3回の公開会議、6回の会議を行った。下半期は台風19号や新型コロナウイルスの影響でほとんどの活動は停滞してしまった。集めた寄付金の配布は行わなかった。

子どもSUNSUNプロジェクトの寄付イベントであるサンタdeラン&ウォークでは過去最大の参加者を集め450万円を集めた。さらにたかはら子ども未来基金では、助成部門では3団体に助成、学生インターン部門には5団体に助成し、学生には5人助成した。

### ②学生、若者の活動者の増加。(Vレンジャー登場)

ミヤラジ「みんながけっぷちラジオ」の学生などの活躍で、宇大を中心に若者が若者を呼び安定して若者の参加があった。県北事務所と連動して子ども夏キャンプや子ども冬遊びを実施するまでに至った。家庭の事情で体験の少ない子どもたちに体験の場として実施された。

### ③拠点拡大に連動していな組織の縮小、会員の減少

県北事務所、F B日光事務所など拠点整備に取り組んできた。だが、そこに**集う人や会員は増えていない**。高齢化にともない会員の減少も続いている。

県北事務所は子ども食堂、無料学習支援教室を開催したが、自主財源（会費・寄付）の目標は未達成となった。本部も職員が1人交替し、事務の立て直しが続き、会員拡大がほとんどなされなかった。

#### ④フードバンク（F B）事業のN P O法人化、災害救援活動

F B宇都宮は食品の流流量、困窮者支援数が増えきている。しかし通常の範囲での増加であり、**計画的な拡大ではない**。集めた食品数量も減少となった。応援する企業などは増えてきてはいるがまだ不十分である。

ボランティア希望者は増えていて、安定的に活動するものは15名に及んでいる。毎週の定例会議も平日の午後2時という時間にもかかわらず10名前後の参加になっている。

資金調達イベントのチャリティウォークは関係者の努力により過去最大の参加者となったが、**寄付は180万円程度に減少**した。資金と人集めの両立を考慮しイベントを立て直す必要がある。

なお、今期は宇都宮市内にF Bのサテライト拠点を増やす準備が始めたが、有効な広報口コミでの直接的な巻き込みをしなければ、ボランティアの増加も会員の増加も難しいだろう。

## 2. 事業報告

### A. 【ボランティアセンター】

#### (1) ボランティア・コーディネーション事業（ボランティアとN P Oに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」S O Sニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別S O Sの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

##### ①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、F B宇都宮でのS O S対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた「**個別のS O Sに同行支援する方法**」を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1 相談者の状況のまとめ】 小澤さん完了

	のべ (回)	月平均 (回)	実数 (件)	内複数回 支援(件)	宇都宮市内/市外 ( )は住所不定	世帯の人数	男/女
2012年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、2人:5、3人以上:2	22/8
2013年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、2人:14、3人以上:5	28/18
2014年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、2人:11、3人:6、4人:3、5人:5、6人:1、7人:3、10人:1	106/29
2015年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、2人:25、3人:11、4人:7、5人:6、6人:4、8人:1	118/47
2016年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、2人:33、3人:10、4人:10、5人:3、6人:1、7人:1、10人:1	124/61
2017年度	572	47.7	248	182	177/15(29)	単身:158、2人:35、3人:11、4人:11、5人:6	160/61
2018年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身:218、2人:49、3人:19、4人:9、5人:4、6人:4、7人以上:1	217/87
2019年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身:271、2人:51、3人:26、4人:13、5人:3、6人:2、7人以上:0	261/105

<p><b>【全世帯】 366 世帯</b> —2019 年度—</p> <p>●主な困窮の内容(複数)：仕事探し・失業・就職 192、 病気・健康・障害 56、 住居 6、 金銭管理・所持金無し 178、 精神疾患・人間関係など 33、 日々の生活(低年金)275、 債務(家賃滞納など含む) 81、 子育て・介護 16、 DV・離婚など 20</p> <p>●生活保護の世帯数： 受給利用中：75、 手続き中：57</p> <p>●本会までの経路： 自治体(生活福祉課・子ども家庭課・保健所など) 119、 社協(県内社協含む) 76、 児童相談所 1、 宮ハローワーク 23、 地域包括支援センター17、 NPO16、 法律(法テラス)1、 医療 2、 介護福祉サービス 8、 支援者(弁護士・議員・不動産関係・専門職含む) 16、 ネット・テレビ 6、 困窮者仲間(本人再利用含む) 38、 交番・警察署 6、 その他 37</p>	<p><b>【住居なし】 32 世帯</b></p> <p>●男女比は、男 32：女 0 単身 32 世帯</p> <p>●年齢 10 代 0、20 代 2、30 代 4、40 代 9、50 代 7、60 代 8、70 代 2、80 代以上 0</p> <p>●困窮の内容(複数) 仕事探し就職 22、ホームレス 10(うち車上生活 2、移動中 3)、住居 2、精神疾患・人間関係 2、収入生活費・低年金 25、病気・健康 2、離婚 1</p> <p><b>【女性相談者】 106 世帯</b></p> <p>●単身 51/世帯持ち 55(内、母子家庭 30-子育て世代 17)</p> <p>●困窮の内容(複数)：DV離婚など 12、病気・精神疾患 41、仕事探し・失業 39、金銭管理不能・債務 23、DV9、無・低年金 50、子育て・介護 5</p>
--	--

今期基本方針の一つであった栃木ボランティアネットワーク独立型社会福祉士事務所が10月より設置開所することができた。今期の支援件数は366件(世帯)、のべ828回と、回数は前期の1.21倍になった。対外的、政策的には緒に就いたばかりであるが「個人からのSOSへの対応を行い社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつある。

奨学米プロジェクトは、従来通りの活動の域を越えず、支援対象世帯は大幅には増えなかった。新たな周知方法や対応が必要である。しかし継続的な支援のなかで、協力という方ではあるが中央児童相談所との連携が生まれ始めている。21世帯(ウィメンズ栃木対応3世帯含む)、延べ100回、奨学米1,076kg、その他食品653.6kg、野菜配達188回であった。

**表1は相談者の状況のまとめ**である。母子家庭など地域で定着している困窮者(世帯)への支援方策は見えてきたが宇都宮の母子家庭だけで2700世帯(推定)あり、掘り起しが必要である。また、**71%を占める単身男性**への支援方策はまだ見いだせていない。

## ②コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省**社会的包摂ワンストップ相談支援事業**を受託する(一般社団)社会的包摂サポートセンターの「コールセンター栃木」の運営支援をした。栃木では**13人のスタッフ**で年間**1801件の電話相談**に対応した。そのうち緊急支援の必要があるものについては本会のネットワークを使って同行支援をおこなった。

## ③ユニバーサル就労研究会の運営

生活困窮者の就労支援について『FB通信』や民ボラ研修会での状況を関係団体に情報提供していたところ、**ふれあいコープの竹内理事長からの発案で「ユニバーサル就労についての研究会」**を開催した。9月から7回、毎月開催した。1月には先行事例である生活クラブ千葉や、NPO法人ユニバーサル就労ちばを招いての研修も行い、3月には「職員を配置して来期からの実施」を決定したが、新型コロナの緊急事態宣言により会議・事業を中断している。

9/12：困窮者支援のユニバーサル就労について協議(矢野/ふれあいコープ竹内・砂山他1、コープ塚原・菊池)
10/8：ユニバーサル就労研究会(矢野・小沢、ふれあいコープ/竹内・砂山・菊池、とちぎコープ/塚原・菊池)
11/7：ユニバーサル就労研究会(ふれあいコープ/竹内・砂山、とちぎコープ/塚原・菊池、小澤・矢野、にじみる/高田)
12/2：ユニバーサル就労研究会(ふれあい/竹内・砂山・菊池、生協/塚原・菊池、高田、矢野、服部弁護士)
1/30(木)ユニバーサル就労研究会(矢野・小澤、竹内・砂山・菊池/ふれあい、塚原・菊池/とちぎコープ、田畑/生協連、田中・五十嵐/コラボワーク、平田/ユニバーサル就労ちば)
2/20(木)ユニバーサル就労研究会(矢・小、ふれあい/竹内・砂山・菊池、生協/塚原・菊池)

## (2)講師派遣事業(ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

	回数	月日	講座名(内容)	主催等	場所	講師	聴講数(のべ)
1	4	4/9~	国際NPO起業論	宇都宮大学・大学院	宇都宮	矢野	44
2	8	4/12~	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野	56

3	1	5/12	子どもの貧困について	栃木県内ロータリークラブ・社会奉仕部会	佐野	矢野、徳山、山口、早川、福田、塩澤	50
4	1	7/6-7	民ボラ分科会「民間非営利とは？」	全国ボランティア推進団体会議(民ボラ)	千葉	矢野	30
5	1	7/24	「子どもの貧困撲滅5か年計画」講師サンサンPの取り組みについて	小山市保健福祉課	佐野	矢野	50
6	1	10/17	「子どもの貧困」贈呈式講演	陽南ロータリークラブ	宇都宮	矢野	35
7	1	10/27	岩舟町災害講座	栃木市・岩舟支所	栃木	矢野	15
8	6	10/23~	「ボランティア入門」シルバー大中央校講座	シルバー大学(北・中央・南校)	宇、矢板、栃木	矢野	480
9	1	11/19	「NPO論」講義(FBと子どもの貧困)	独協医科大学・看護学部	壬生	矢野	120
計	24						880人

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は**25回**(聴講数のべ880人)で、講義は減少し、**5年前の116回からは5分の1に減少**している。子どもサンサンプロジェクト関連での「**子どもの貧困**」がテーマの講義が多かった。講義内容の変化はNPOやボランティアを学ぶことから「**社会問題の解決への実践とその糸口を見出したい**」という求めであろう。

## 事業報告 B.【フードバンク宇都宮】

### (1)フードバンク事業(生活困窮者の支援)

賞味・消費期限内に食品を無償でいただく、無償で配るフードバンク(FB)活動は、今期は**10トンの食品受贈**があった。全体的に受贈数量が減少しているのは、企業からの飲料の入庫がほとんどないためである。企業の受贈は**スーパーカスミ**が2017年度より県内5店舗に協力いただいたが、他のスーパーからの食品寄贈は増えなかった。

奨学米プロジェクトは口コミのみでの広報で展開しているが、支援対象世帯は増減はあるものの全体数増えていない。行政との連携を強化していくことが急務である。

当会は、日本フードバンク連盟の正会員として活動している。19年度は**現地集合同会議(名古屋)**を1回行い、ネットを利用した会議を2回行い、各団体の情報交換と日本FB連盟の今後の方向性を話し合った。

月	受贈量(kg)	寄贈量(kg)
4月	728	858
5月	554	879
6月	422	523
7月	513	585
8月	872	742
9月	1228	686
10月	1673	945
11月	848	927
12月	739	701
1月	858	885
2月	539	801
3月	1109	970
<b>合計</b>	<b>10,083</b>	<b>9,502</b>
前年(2017)	15,481	13,497
増減	-5,398	-3,995

※内、企業からの寄贈は5,900kg

### ①フードドライブの実施

フードドライブの食品受口として**食品受付箱(以下:きずなボックス)**を多くの人が出入りする場所に設置した。公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の**10か所**に設置した。一定の宣伝効果がある。しかし、きずなボックスの食品受取りについては、管理する店舗の善意と、ボランティアでの回収が前提なので、前期は増えなかった。今期は10か所以上は増やすことを目標とする。

**フードドライブ(FD)**は定期的の実施できたのは**とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、栃木保健医療生協、栃木県庁関係10回**、FDを行った。また市内・光琳寺では毎月1日に境内で行うラジオ体操時にFDを実施した。3月については、新型コロナウイルスの影響で全部中止となってしまった。

一方でFDでの食品量が増えたのに伴い、セカンドハーベスト・ジャパンからの供給される食品は飲料や冷凍食品などが多く倉庫のストックする食品の優先順位が低いものが多いのでほとんど受け入れはなかった。今後、新型コロナウイルスの影響で増大する困窮者によるFB活動の拡大に合わせて、**倉庫、ボランティア、食品、資金の調達**が急務になってきている。

<p><b>フードドライブ：29回</b></p> <p>毎月1日(金)光琳寺FD(きずなBOX設置)12回</p> <p>5/19(日)：フェスタ my 宇都宮FD</p> <p>6/15(土)：県民の日FD(伊東、曾根、夏目)</p> <p>8/29(水)：福祉の集いFD(伊東、曾根、徳)</p> <p>9/28(土)：もったいないフェア2019(伊東、石江、夏目、徳)</p> <p>10/11：JU 栃木チャリティオークションFD(木下・徳)</p> <p>10/6(日)：食育フェア(伊東、曾根、木下)</p> <p>10/26 パルシステムフェアFD(曾根、松葉、石江、徳)</p>	<p>10/27(日)双葉クリニックFD(石江、伊東、夏目、徳)</p> <p>11/3：とちぎコープ越戸店FD(石江、徳)</p> <p>11/9：介護の日(曾根、稲村、ガネ、徳)</p> <p>11/16：益子町民まつりFD(伊東、曾根)パルティフェア(松葉、徳)</p> <p>11/24(日)：とちぎコープフェスタ(FD)(石江、釜井、徳)</p> <p>11/30(土)：エコテックライフとちぎFD(伊東、曾根)</p> <p>12/1：協立診療所健康祭りFD(石江、小澤、徳)</p> <p>1/19：反貧困、FB合同炊出し(徳山、他35人)</p> <p>2/23：ハーベストウォーク(伊東、石江、曾根、徳山)</p>
--	--

## ②FB食品の利用

学齢期の子供がいる低所得の母子家庭等に対し毎月定期的に米を提供し、浮いたお金で学用品などを買ってもらう「奨学米プロジェクト」を実施した。年度末からは月1回の米の他に、合間に**野菜・パンの配達**もボランティアによって実施した。

母子家庭のほとんどは働いているが非正規が多く、また生活・通勤に都合で自家用車を持っている場合、生活保護を受けられない。低所得のうえ社会保障の給付の枠組みから外れていて、**事実上生活保護以下の暮らしをしている人も多い。**

お母さんたちは毎月定期的に支援者と話せたりすることで**困り事を言える状況が生まれ、母子家庭の孤立を防ぐことが主眼である**が、FB内部の相談員や奨学米ボランティアの数が増えているが、支援世帯数を増やすまでには至らなかった。

日夜働き詰めの母との、接点の時間を確保することが困難であることが原因である。引き続き**女性支援ボラ等**を段階的に育成し、お母さんの悩みを聴ける体制を整える必要がある。

学齢期にある生活困窮家庭への“奨学米”プロジェクト要項	
<p><b>1、目的</b></p> <p>2010年度の国の調査では、母子家庭のうち65%が年収180万円以下であり、夫婦2人世帯の平均年収では300万円以上の差がある。また国民の相対的貧困率は16.1%であるが母子家庭の貧困率は54.3%である。様々な事情で身内や地域に頼れない人も多くフードバンクに頼れない(頼らない)人も多い。さらに2014年度に本会・フードバンク(FB)宇都宮が、女性(世帯)へ支援した割合は3割であり、非常に少ない。</p> <p>こうしたことから、FB宇都宮では学齢期の子供がいる母子家庭等に対し、米による家計負担の支援を定期的に行い、同時に生活の相談を行うことで困窮母子家庭の生活支援をしていく。</p> <p>母子家庭等と、本会職員・ボランティアがつながりを持つことによって、何か困った時に頼ることができる関係＝縁を作り、一緒になって解決できるようにすることが重要である。</p> <p><b>2、対象者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として県央地区に住む学齢期の子供がいる母子家庭等、20世帯</li> <li>・低所得(例/3人家族で月収20万円、年240万以下)の世帯であり、身内や友人にたよることが難しい世帯。</li> <li>・生活保護世帯は対象外とする。</li> </ul> <p><b>3、内容</b></p> <p>①1か月白米10-30kgの支援を毎月行う。対象世帯の人数と状況を勘案し決定する。</p>	<p>②対象世帯数20世帯。米の確保、倉庫の課題が解決されれば対象者数の増加も検討する。</p> <p>③米保有量は4.8t(10kg×12月×20世帯)</p> <p>④配送方法は原則としてボランティア等が相手宅まで届ける。配送の際に相手宅の玄関をまたぐことが関係構築や状況把握の上で重要と考える。(場合によってはフードバンク事務所に本人が来ることも可とする。)</p> <p>⑤配送日は原則として、火曜日13:30-17:00。対象者の都合が悪い場合は要相談。</p> <p>⑥受付はVネット事務所(028-622-0021)で行う。</p> <p>⑦ボランティアは5人程度募集。同じ人が同じ家庭に継続的にかかわる。</p> <p>⑧保管は米で行いその都度精米する。保管場所は、当面FB大田原の倉庫とするが、宇都宮近郊で倉庫を探していく。</p> <p>⑨配送社はFB所有のハイエースやボランティアの自家用車とする。</p> <p><b>4、広報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米募集…インターネット及び、チラシを作成しJAやコープ等に営業。</li> <li>・対象世帯向け…対象世帯むけのチラシを作成。DV関係NPO、母子家庭関係者に対象世帯の選定、ピックアップの要請をする。</li> <li>・ボランティア募集…チラシの他、インターネットでの周知、本会会員・ボランティアに対しては電話、機関紙等での勧誘を行う。</li> </ul> <p>(福祉プラザ、まちびあ、ピックアップ要請団体、若者支援系の団体)</p>

## ③県内ネットワークの拡大

宇都宮市駅東地区の今泉地区に市内2か所目のサテライト拠点を設置するに至った。しかし、台風19号被災者向けの食品倉庫的に使用した以外は本格的な稼働までには至らなかった。その他の地区については現状維持のままである。

## ④広報

拡散の波及威力の強いツイッターを中心にほぼ毎日のように更新するなど行いフォロワー数も 1000 近くに及んだ。ツイッターによるネットワークもできつつあるが、そのほかの広報についてはホームページを新設する以外には力を入れることができなかった。台風 19 号の被災者支援がらみにおいては、NHK 宇都宮、や各種の新聞に掲載されることができた。

## ⑤各拠点ごとの事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

<フードバンク大田原>支援機関の要請により食品支援の実施。学生向け奨学米プロジェクトを計画している。

<フードバンク日光>毎月第一日曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。

<b>F B 日光会議：12 回</b> 4/7、5/5、6/2、7/7、8/4、9/1、10/6、11/3、12/1、1/5、2/2、3/1
---

<フードバンク那須烏山、フードバンク鹿沼>フードバンク那須烏山、鹿沼は困窮者への行政、社協からの依頼の食品支援を中心に行った。

<b>フードバンク(ボランティア)会議(毎週木)：49 回</b>	9/19、9/26、10/3、10/10、10/17、10/24、10/31、11/7、11/14、11/21、11/28、12/5、12/12、12/19、12/26、1/9、1/16、1/23、1/30、2/6、2/13、2/20、2/27、3/5、3/12、3/19、3/26
4/4、4/11、4/18、4/25、5/9、5/16、5/23、5/30、6/6、6/13、6/20 6/27、7/4、7/11、7/18、7/25、8/1、8/8、8/22、8/29、9/5、9/12	

## (2)ファンレイジングの強化 (生活困窮者の支援)

### ①チャリティ・ウォーク 56.7 (CW56.7) の実施

フードバンクへの寄付集めと広報のため 10 月 5 日・6 日に寄付イベント「チャリティ・ウォーク 56.7」を開催した。結果 1,883,577 円の寄付があり、チャレンジャー 51 人、ウォーカー 5 人、ボランティア 60 人の参加が得られたが、競争の要素を取り入れ活性化を図ったが資金調達については十分な活動を展開することができず、昨年より 40 万円寄付金は減少した。

運営のために 6 月から実行委員会を組織し**実行委員会・ボランティア説明会を 9 回**実施した。さらにチャレンジャー個人や協力団体のファンレイジング**事前(事後)イベント**が行われた。

天候は非常に良好な環境で実施することができた。CW56.7 は参加すれば非常に楽しいイベントであるが、参加者・寄付額とも第 2 回が最高で、その後はほとんど伸びていない。実施体制・組織の強化が必要であろう。

<b>第 7 回 チャリティ・ウォーク 56.7 ～みんなで作るセーフティネット＝フードバンク～</b> 2018/10/5-10/6 (宇都宮・矢板—今市—中禅寺湖)	
<b>1、開催趣旨</b> 本会が行うフードバンク活動への資金造成(寄付)とフードバンク活動の理解促進のために 1泊2日でチャリティイベントを実施する。 寄付を集めることとともに困窮した状況にある人たちの現状や制度の限界を伝えることで、「私たち自身がセーフティネットを作っていく」必要性を理解し、またこうした仕組みの存在があることで「やりなおしがきく社会」をつくる希望となることを伝える。	
<b>2、日時・場所</b> ・2019年10月5日・9時—10月6日・16時頃(雨天実施) ・宇都宮市、日光市、矢板市、塩谷町 ■1日目 10/5(土) ●宇都宮コース：(出発)宇都宮市中央(まちかど広場) ⇒(経由)長岡公園 ⇒(泊)今市市街 ●矢板コース：(出発)矢板市(長峰公園) ⇒(経由)矢板市道の駅 ⇒(泊)今市市街 ■2日目 10/6(日) ※宇都宮、矢板コースは今市で合流します。 今市 ⇒(経由)いろは坂 ⇒(到着)中禅寺湖畔	<b>●「いろは坂」出迎えウォーク(日光)</b> ・10月6日、12:00~14:30 ・56.7km チャレンジャーを出迎のためにゴールまでの約7km(いろは坂)を一緒に歩いて登る。 ・個人/一口2000円以上の寄付+食品1品 ・集合場所/日光市 馬返し休憩所(いろは坂の一方通行分岐点) ※上記「参加費」はすべて寄付扱いとする。また「寄付」はなるべく自分以外の人から寄付を募ってくる。
<b>3、内容</b> <b>&lt;メインイベント：①チャリティ・ウォーク 56.7&gt;</b> ●チャリティ・ウォーク 56.7 ・宇都宮市まちかど広場(レディオベリー前の公園)と矢板市長峰公園から日光市中禅寺湖畔の大鳥居までの56.7kmを1泊2日で歩く。 ・個人/参加費10,000円+5,000円以上の寄付 ・チャレンジャーは、各自で寄付者を募る簡単な催しを行い、実行委員会事務局とともに表出する。各チームが独自にファンレイジングをすると同時に、各種メディア、SNS等で事務局に直接寄付できるようにする。	<b>4、広報</b> WEBサイトによる広報。①チャレンジャーのイベントを逐次公開 ②フードバンクの周辺にいる困窮者の実情を記事で紹介する(毎週3回更新) <b>5、募集</b> ・参加者 ② チャリティ・ウォーク 56.7…100人(団体：13チーム、個人：30人) ②送り出しウォーク…10人程度(5日のみ)

<p>・またチームや個人は Just Giving 等 ネット上の寄付サイトにも登録。  <b>【サブイベント】</b>  <b>●送り出しウォーク（宇都宮、矢板）</b>          ・10月5日、9：30～11：00          ・56.7km チャレンジャーを送り出すためのサブイベントとして、①宇都宮市二荒山神社から長岡公園までの4km（往復8km）を一緒に歩く。          ②同様に矢板市長峰公園から道の駅矢板までの往復4km。公園でフードバンク等の簡単なスピーチやボランティアによる出し物を行い、盛り上げる。          ・個人／一口1000円以上の寄付＋食品1品          ・現地に直接集合も可。</p>	<p>③出迎えウォーク 6.7…10人程度（6日のみ）          ・ボランティア…100人          ・宿所提供…自治公民館、体育館などルート上の公共または民間施設（30km 地点に設置。今市の市街地を予定）          ・協賛企業…参加者への支援飲料、食品など  <b>6、目標金額：300万円</b>   <b>7、開催までの日程</b>          9/24 CW ボランティア説明会  <b>8、開催後の日程</b>          10/13(日) CW打ち上げ（参加10人位）          10/20 県北事務所 CW打ち上げ（20人）</p>
--	--

## C. 【災害救援・復興支援活動】

### (1) 救援・復興支援事業（災害救援事業）

#### ① 台風15号水害救援活動

9月の**台風15号（千葉）**、10月の**台風19号**での**栃木県内の救援活動**を行った。台風15号では調査派遣と県内からの救援活動の促進のため街頭募金をおこなった。現地活動を行っていた**チーム鹿沼へ20万円の活動資金の助成**をした。しかし栃木県内で水害が発生したため救援計画を中止した。

#### ② 台風19号水害救援活動

10/11に発生した**台風19号水害**について、翌日から救援活動を開始し10月13日～3月31日の5か月半（のべ118日）活動した。活動者は**職員2（のべ132日）、ボランティアリーダー6人（のべ87日）、ボランティア（のべ1684人）**であった。

本会の活動は大きく**(1)県全域への支援、(2)宇都宮市内の支援**であった。協力連携機関として、(1)は栃木県（県民協働推進室）、栃木県社協、ぽぽら、栃木市・くらら、風組関東、被災地NGO協働センター、JV OAD、全国カーシェアリング巨魁等であった。(2)の協力連携機関は、宇都宮市社協、とちぎYMCA、地元NPO、地域包括支援センター、特養いずみ苑等であった。

#### 【栃木県全域への支援】

①**とちぎコミュニティ基金「がんばろう栃木！募金」**：とちぎコミュニティ基金内に災害救援活動を支援するため「がんばろう栃木！募金」を設置した。寄付金380万円のうち120万円を3団体に助成した。

②**物品寄付サイト「スマートサプライ」の運営**：必要な災害救援の物資を必要なだけ寄付できるオンライン物品寄付「スマートサプライ」を運営し、県社協等を通じて各地の災害ボランティアセンターに物品寄付をした。

③**情報共有会議の実施**：8回の会議を実施した（参加のべ145人）。会議の方法・進行もPPTやWEBでの広報などかなり工夫した。しかし県外からの参加も想定したものの3団体程度であり、また、社協、行政からの参加も少なかった。会議の位置づけや、地域の情報交換の意義が理解されていないこと、ボランティアが少ないことが原因であろう。

④**Facebook グループとHPの運営**：県域会議と並行して「支援者のfacebookグループ」と進行中の情報のHP

での定着を広報手段とした。WEB 導入などの着手は早かったが、情報の収集・加工の人材不足で外部に支援を求められず、本会職員が独自に実施せざるをえなかった。人材域性が県域プログラム全体の課題である。

⑤各被災地の NPO・企業・社協等とのネットワーク形成：被害が広域であるため、那須烏山、栃木、佐野、鹿沼の社協の災害ボランティアセンターを中心に、地元 NPO や中間支援団体のネットワークの形成支援をした。

A：ネットワークの形成：県の情報共有会議の主宰、情報提供の訪問・調整 47 回

B：「家の補修講習会」：6 回実施。(栃木 1、佐野 1、宇都宮 4 回)、

C：「復興寺子屋」の実施：1 回 (栃木)。「被災後の暮らしと住宅ミニ講習会」1 回 (栃木)。「足湯ボランティア」：14 回 (宇都宮 4、栃木 10)。本会の職員とボランティアが定期的に実施した。

D：「DIYセンター」の実施：独自に助成金を獲得し、栃木市、宇都宮市に「DIY 復旧センター」を設立した。軽トラ、家の復旧工具類の貸し出しをおこなった。

E：被災地カーシェアリング：全国カーシェアリング協会の支援で、栃木市「くらら」に拠点を設け県内全域に車両を貸し出した。栃木市を中心に 2 月末までに 25 件の利用があった。

④緊急支援活動(宇都宮市千波・東鳩田・今泉地区)：宇都宮市中心部の田川流域の両岸地区で炊き出しを実施。「炊き出しセンター」を設立して需給調整をした。

### 【宇都宮市内への支援】

①「うつのみや暮らし復興支援センター」の運営：11 月末までの「炊き出しセンター」終了後、これまで宇都宮市内で活動してきた NPO やボランティアを総合して「うつのみや暮らし復興支援センター」を設立。特別養護老人ホームいずみ苑内に拠点を移し 12 月からニーズの掘り起し、相談会、子供食堂/地域食堂を実施した。

A：日本財団 DIY 支援センター：日本財団の助成で DIY (自力での家の修繕) を行いたい人のための機材や軽トラックなどの貸し出しを行った。職員 3 人を配置して

B：イベント：3 回 (1/5 お披露目もちつき、1/26 ローラー調査、2/24 ローラー調査・水害アーカイブ)

C：相談会の開催：「住宅相談会」4 回、「法律相談会」2 回

D：子ども食堂/地域食堂：9 回。毎週金曜日に実施。子どもたちは増えず、高齢者が数名参加した。この子供/地域食堂は当初地域の店舗再開のため支援として委託を構想したが、場所等の関係でオーナーとの折衝が上手くいかず、自力での開催とした。

②避難行動・避難者調査、「水害アーカイブ」の実施：社会調査の専門家の協力で「宇都宮の水害の記録と調査」を行った。自治会の協力を得て「避難行動、復興感、被害額等」などの内容アンケートを 1200 世帯に配布した。34%の回収率であった。また、水害時の写真持ち寄りと聞き取りのイベント「水害アーカイブ」を行った。調査報告は 5 月末に公表される。

### 【活動の成果と課題】

●県域と地元(市域)の両方の活動を行った。全体としてボランティアが圧倒的に不足したことが、災害ボランティアセンターや自治体の活動が創発せず「できることを、やれる範囲で」と消極的な姿勢にしてしまった。社協 VC の情報提供レベルの改善のため、本会 HP 上で情報まとめを試みたが、ボランティア希望者を誘導できなかった。

●県域の災害救援活動を進めるために三者連携を試みた。情報共有(支援プログラム、課題、成果)と情報活用が重要であるが、県域の調整を行う人材が育っていないため迅速な情報提供態勢が作れなかった。組織内、組織間の連携が課題である。

●宇都宮市内では社協、YMCA、NPO、老人ホーム等と多様な資源のネットワークがあったが、市社協(市)、市 NPO 支援センターとも連携不足で活動がバラバラだった。災害救援の経験不足と外部ボランティアが来ないことが、ニーズ調査、支援プログラム開発、資金にも大きく影響した。



一方で「炊き出しセンター」は、災害V C一辺倒の活動にあって、泥だし以外の活動となった。また「床下、壁」等の技術系ボランティアの活躍があった。さらに法律相談会も好評であったが専門家の協力はあまりなく課題である。炊き出しセンター以後、「うつのみや暮らし復興支援センター」を設立、拠点を設けてニーズ掘り起しと対応を進めたことで、埋もれた被災者の声に対応ができた。

●**栃木県内**では、D I Yセンター (2 か所) や災害時カーシェアリングなど外部団体の協力による活動促進ができた。栃木市ではフードバンク宇都宮のサテライトとして「被災地フードバンク」が活動を展開した。

10/13(日)災害対応：寄付 WEB サイト作り ①「がんばろう栃木！募金サイト」、②「水害にあったときにサイト」、災害どうするか会議①(矢・徳・小・柴田、山口、塩澤、荒井、米山、藤久保)	12/8(日)D I Yセンター打合せ(風組関東・小林、中原、矢野)、宇都宮の現場見学(いづみ苑・東鳩田)、日本財団とD I Yセンター予算調整(栃木くらら・矢野・小林/風組、藤重)、F Bサテライト開所内覧会
10/14(月)災害「スマートサプライ：物品寄付サイト」導入、災害どうするか会議②(参加 14 人)	12/16(月)栃木・長寿園の足湯訪問(木村さん他 6 人位)、いづみ苑・復興支援センター会議(矢野・徳山他 8 人位)
10/15(火)災害調査：那須烏山V C訪問	12/18(水)県・災害情報共有会議(ぼぼらで)
10/16(水)県災害情報共有会議①(県庁・20 人)	12/20(金)/復興支援センター会議
10/19(金)市災害会議(徳・矢・大・塩澤、荒井、山口、山本、八木・市社協)	12/21(土)/復興支援センターパンフ・製本&届け(いづみ苑往復)
10/23(水)県・災害情報共有会議②(土崎、大木本、矢野他 20 人)	1226 来所対応(関東風組)、復興支援の法律研修(矢野：県社協)
10/24(木)災害V ネット内会議(徳・矢・大、伊東・曾根・石江V)	12/29(日)住宅相談会、復興支援センター会議(矢・徳・小澤、塩澤、西大路、山口他 2・小林か、米山・八木、渡辺・井野、小林・石川・小竹)
10/25(金)風組関東来所(水害後の講習会、カーシェアリング、D I Y センター等)	1/5(日)復興支援センター、チラシまき&もちつき&家の補修講習会(小林、7 組来所)
10/26(土)災害街頭募金(AM 2 人、PM 6 人～8 人)、市の災害会議(矢野・塩澤・荒井・小澤・山口・八木/社協)	1/10(金)災害：栃木・くららで会議(矢野、立部/神戸、中村、小平・真家/市議)、田川地域食堂&復興支援センター会議
10/27(日)災害街頭募金	1/12(日)災害：復興支援センター・チラシ(8 人×750 枚)
10/28(月)研修：災害時の中間支援団体の 12 の役割(矢野、宮坂)	1/14(火)害：WEB/FB 更新、災害：錦地区民児協で復興支援センターの広報(民生委員 15 人・猪俣/矢)
10/29(火)県庁で打合せ(松本・小林、矢野・土崎)	1/17(金)田川地域食堂・センター会議(5 人)
10/30(水)栃木市吹上公民館・災害情報共有会議③(20 人)	1/18(土)来所対応(カーシェア協会・吉澤)
11/1(金)県社協でコアメンバー会議(県社協/阿久津事務局長・齋藤、県/松本・小林・室井、矢野、町田・三橋/ぼぼら)、災害 WEB 仮サイト(内容：炊き出しセンター、今日の災害V C)	1/19(日)復興支援センターで活動(備品管理ラベル貼り)、
11/2(土)宇都宮情報交換会(塩澤・荒井、八木、山口、宮本、渡辺、徳山・小澤・矢野)	1/20(月)健康の森・石原さん講演会「災害とボランティア IN 栃木」
11/4(月)千波地区・水野・米山打ち合わせ、スマートサプライ打合せ、宇都宮情報共有会議(矢野、塩澤、山口、八木、J C、福田ち、渡辺、鈴木自治会長)	1/24(金)田川地域食堂・会議(矢・徳、坪井)
11/17(日)風組小林来所(日本財団D I Yセンター助成金の協議)、家の適切な補修講習会(栃木/7 人)、家の適切な補修講習会(宇都宮/5 人)	1/26(日)災害：さがみ典礼で調査ボラ・オリエンテーション&チラシまき&炊き出し&家の補修講習会(5 人+ボラ 30 人)
11/18(月)佐野社協、佐野駅南ボラセン訪問	2/2(日)鳥山-栃木D I Yセンター訪問(風組/小林・石川、浜野・小尾/矢)
11/22(金)栃木市・くららで頼政他 4 人インタビュー(中村、矢野、頼政、立部、柳下、毎日、作用町)、県情報共有会議③(20 人+頼政一行)、災害：まちびあで会議(塩沢、安藤、矢野、山口、渡辺、福田)	2/3(月)カーシェア協会打合せ(県庁・吉澤・中村)、栃木市社協生活困窮(井出、吉澤・小林・)
11/23(土)佐野社協(矢野・立部、熊倉)⇒日光軒(矢野、立部、他 4 人)	2/4(火)さのボラネットに「D I Yワゴン」営業(若田部、高橋他 5 人)
11/24(日)被災地案内(カーシェアリング協会・吉澤さん)	2/1(金)田川地域食堂・センター会議
11/25(月)災害：立部企画「応急処置対応ミニ講座(建築士、行政書士、住民 3 人)	2/13(木)災害：D I Yセンターチラシ作成
11/26(火)来所対応(JP F 柴田+JVOAD 成田)、被災地・サロン往復	2/14(金)田川地域食堂・センター会議
11/27(水)災害：復興寺子屋の企画調整、災害：D I Yセンター等調整	2/21(金)田川地域食堂・センター会議(山口、矢野、塩澤、坪井、地域住民 3 人)
11/28(木)D I Yセンター助成金調整(中村、立部、矢野、財団/藤重・小池)	2/24(月)炊き出し・調査・田川水害写真集め(坪井・山口・塩澤・橋本・西大路・大橋V、小林風組 5 人、真岡センター20 人)
11/29(金)災害新HP サイト作成(ワードプレス版)	2/27(木)県情報共有会議(塚本・小尾、山口・塩澤・矢野、徳山、小林風組、柴田、佐野)
12/1/災害：復興寺子屋(くららで/協働センター：村井・立部、横田、稲垣、君島・矢野、中村)	2/28(金)田川地域食堂(山口・坪井・矢野・西大路・)
12/3(火)災害：全国情報共有会議(矢野他、茨城、宮城、長野、いわき、相模原/100 人)	3/6(金)田川地域食堂・センター会議(塩澤・矢野・山口・徳山)
12/6(金)災害：「うつのみや暮らし復興支援センター」会議(矢野・塩澤他 5 人/まちびあで)	3/16(月)困窮者カーリース、地域カーシェア営業(県社協・津布久、矢口、カーシェア吉澤/矢)、(鹿沼社協・神山、若色、カーシェア吉澤/矢)
	3/20(金祝)災害：日本財団・共同募金会助成金の決算事務
	3/27(金)、復興支援センター会議
	3/29(日)復興支援センター・引っ越し

### ③復興支援活動：まけないぞうプロジェクト・復興わかめの販売

【まけないぞう】今期も東日本大震災被災地の復興支援のために「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会

が買い取って販売し売上の25%が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。  
**当期は70頭、28,000円の売上**となった。ほぼ昨年同様の売り上げとなった。

【復興わかめ】東日本大震災の被災地の復興支援のため、石巻十三浜のわかめを「まけないぞう」とともに販売した。今期は**65個、26,890円の売上**だった。

## (2) 防災出前講座 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

講師派遣の要請が**2回**あった。

10/27(日)岩舟町自治会災害講座(15人) 矢野、11/30(土)栃木市岩舟町防災講座(30人) 矢野

## (3) 「とちぎVネット災害救援ボランティア基金」(NPOの活動資金の援助事業)

台風15号水害の寄付が**100万円**となり、千葉への支援を行っていた**チーム鹿沼に20万円の活動支援金**を支援した。台風19号水害の寄付が**420万円**となった。共同募金のボラサポの助成金(115万円)とともに本会の救援活動に使った。

# D. 【NPO活動推進センター】

## (1) NPOに関する相談・協働事業 (NPOの育成事業)

### ① 福島県からの避難者支援「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「復興支援員設置事業」と「生活再建支援拠点事業」の2つの事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定1700人いるが、この世帯に対して復興支援員(非常勤2人)は**避難者の訪問支援活動**をした。全戸訪問した名簿で毎月2回、要継続支援30人を対象に実施した。また広報誌『とちぎ暮らしの手帖』を**4回**発行した。

生活再建支援拠点事業は**避難者が来訪し相談できる窓口**を開設し職員1人が兼務する形で週3日開設した。「**交流会事業**」は2回実施。①**6月に神奈川の避難者との交流会**を行い18人の参加があった。さ②**10月には「お祭り風交流会」**として、福島からNPOや太鼓サークルを招き、宇都宮ロマンチック村で県内NPOのイベントとともに実施したが、参加者は10人と少なかった。

### 【「説明・相談・交流会」と提案事業】

#### ① 広域避難者交流バス使(栃木・神奈川) ●2019年7月19・20日(金土)

●場所/栃木県下野市コミュニティセンター友愛館、日光市スパビレッジカマヤ  
 ●内容  
 (7/19) 11:00-12:30/コミュニティーセンター友愛館(神奈川到着、昼食交流会)  
 バス同乗し移動⇒13:30-15:00 日光(大谷資料館見学)⇒16:30 日光市湯元(スパビレッジカマヤ)⇒18:00-20:00 夕食・懇親会  
 (7/20) バスで移動⇒9:00 スパビレッジカマヤ⇒10:00~11:30 日光東照宮参拝⇒12:50~13:40 道の駅しもつけ(昼食)⇒13:50 コミュニティーセンター友愛館(栃木の参加者下車)  
 ・栃木スタッフ3人は友愛館-大谷=2人、大谷-湯本1人、湯本-友愛館2人と3人が入れ替わりながら同行した

●参加者の声  
 ・栃木の避難者80代男性、浪江と栃木を歩き来しながら農業を再開。遊休圃場の借受などで規模も拡大し、息子が継いでいるなどの話をする人もいた。  
 ・同郷の人に会えると思ってワクワクしてきました。  
 ・いつものメンバーでなく、他県の人と話すことで盛り上がっていた。前向きな発言が多かった。  
 ●成果  
 同じ集落の同じ組(隣組)の人がいて、近況等を話していた。  
 普段の様子とは違う避難者の様子を見た。泊りがけで支援者-避難者の距離が縮まった。  
 自分以外の人の動向・消息などの交換をして、気持ちは一気に故郷にな

<p>参加者数/45人          ◎神奈川県からの福島県避難者 20人          ◎栃木県からの福島県出身避難者 16人 ◎スタッフ等 9人</p>	<p>っていたようだ。          □拠点間でも情報共有ができてよかった。</p>
--	--

<p><b>② 浜通りお祭り風交流会 2018/10/20(日)</b></p>	
<p>●趣旨/双葉町の「標葉せんだん太鼓」のグループを招き、避難者同士の交流会を実施する。同時にいわき市からNPOを招き「未来会議」を実施することで、県内外の避難者と地元栃木の支援者も交えた対話の集会を行う。大きな交流集会を行うことでお祭りの雰囲気の中で年に一度でも自分(たちの)のことを話せる状況を作る。栃木県の地元NPOのイベントに相乗りして実施することで集客などの相乗効果をねらう          ●日時/2019年10月20日(日)・10:30-14:30          ●場所/宇都宮口マンチック村          ①1部/予定の「標葉せんだん・・・」は先方の都合で来場できず、代わりに小浜風童太鼓をいわきから招いた。会場来場者50人とが観客となった。うち約10人が福島県から避難者と思われる。(午後の未来会議には不参加)          ②2部/未来会は午後から会場内の栃木県民とともに実施。テーマが「台風の時何をした？」という対話も、お互いが対等に話せる話題になった。          ●参加者数/太鼓:①50人(概数)、②未来会議:21人</p>	<p>内訳:福島県からの避難者:①(推定)10人、②3人          福島県以外の県からの避難者①不明、②0人          その他の参加者:①40人、②18人          ●成果/          ・太鼓のイベントでは、いつもは交流会に参加していない人が、同級生ということで来所した。いわき・富岡の現状などを演奏の合間に話した。          ・未来会議では、福島県からの避難者が3人とすくなくしたが、子どもやNPOのボランティアなど栃木県内の新たな支援者等と話げできた          ●課題/・お祭り風の交流会というコンセプトだったが避難者の来場者が少なく課題である。          ・会場内でも1部、2部の場所が離れており、時間の連続性も含めて運営が難しかった。          ・福島の避難者という枠組みが分断とひがみ(差別)を生み、また「もう支援しないでもいい」という人への押し付けになっているように思う。一方で栃木県内の支援者が増えない一因となっている。</p>

**②新 SAVEJAPAN プロジェクト**

希少生物保護のプロジェクトから「災害弱者の防災」にテーマを変更して**損保ジャパン日本興亜(株)**のモデル事業として実施した。本会は「**外国人の防災**」をテーマに設定し、とちぎYMCA、宇大地域デザインセンターとともに**多文化防災講座、多文化子ども食堂、コミュニティFMのラジオ放送「TABOWATA(多文化防災に関心があるんです、私)」**を平日朝8:55~9:00の5分間番組として放送した。3月に「外国人の多文化防災避難訓練」を実施する予定だったが、コロナ自粛要請により中止した。

<p><b>「要配慮者を包摂した防災・減災」2019年度事業 実施計画書</b></p>	
<p>●事業の目的/災害弱者の防災として、入管法改正にともなう外国人の急増が予想される宇都宮市清原地区の外国人の防災を行う。「防災」を切り口として地域づくりをおこなっている「地域包括支援センターきよはら」と外国人の関係性の構築、「清原国際交流会」への登録等による日常からの外国人と住民との交流促進と居場所/出番づくりを目的とする。          ●事業実施地域/宇都宮市清原地区          ●対象=要配慮者/外国人。特に技能実習生など急増が予想される外国人          ●事業の概要/避難所運営時などに外国人にも伝わる「やさしい日本語」の普及と地域在住の外国人の掘り起こしを行う。          ①月1回、福祉施設等を巡回して実施する「子ども食堂・みんな食堂キャラバン」に合わせて、「ハラル食の防災&amp;避難所運営者(日本人)のためのやさしい日本語講習会」を実施する。また、開催の前に、開催場所周辺の外国人受入事業所(事業主)に対して地区の外国人サポーター(清原国際交流会がすでに委嘱している)とともに参加の勧誘をする。◆3回実施:12、1、2月、◆対象者:自治会役員、民生委員、外国人 ◆参加人数:各回30人、うち外国人15人。</p>	<p>②「多文化避難所」開設訓練(1回/3月) ◆参加数60人(内外国人30人)          ③コミュニティFMによる多言語防災ラジオの試験放送(または、キャンペーン) ◆他のFM局や自治体等と共同し、周知広報と外国人によるモニタリングを検討する。◆聴取人数:100人程度          ●対象者/2018:清原地区人口3万人中、600人が外国人である。11月以降、介護施設への技能実習生の受け入れが本格的にはじまり、急増が予想される。(参考:YMCA福祉会も受入先になっている)          ●問題意識・背景/同地区は地域包括ケアシステムとして「0歳~100歳までの地域包括ケア」を掲げ、「子ども食堂・みんな食堂キャラバン」などで多世代の居場所と出番を作る活動を行っている。「地域包括ケア・第二層協議会」では自治会等につなげていない人の掘り起こしと居場所への誘導の切り口として「防災」に着目している。「つなげていない人」として80-90問題の当事者や外国人を想定している。(自治会加入率54%)          なお同地区では(社福)YMCA福祉会が特養ホームと地域包括支援センターを運営しており、YMCAでは多文化共生と「子どもの貧困の撃退」をテーマに地域住民を巻き込みながら自主的な活動を行っている。また、清原地区には工業団地があり、外国人労働者が多数居住する地区である。          ●当事者以外の市民の関わり方/ラジオによる広報</p>

**③NPOに対する備品・機器の貸出事業**

コピー機・輪転機・紙折り機等の貸出をおこないNPOへの便宜を図った。

■貸出・利用備品:輪転印刷機(有料)、紙折り機、ビデオプロジェクター、パソコンプロジェクター

**④委員の委嘱などでの運営協力**

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。

特に**災害ボランティア支援体制づくり検討会**は2019年1月から4回の会議・視察を行い、災害時の救援体制の構築をはかった。結果的に10月に水害となり、**プレで災害時の支援体制を稼働**させた。2020年3月に「栃木県災害ボランティア活動連絡会議」が発足した。

- ①栃木県社会福祉協議会・ボランティア活動振興センター委員（矢野）②宇都宮市社協・生活困窮者自立相談支援事業/運営委員会（矢野）  
③栃木県県民文化課・災害時ボランティア支援体制づくり検討会（矢野）

## (2) ボランティアの啓発・普及事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

### ①『とちぎVネット・隔月刊ボランティア情報』『フードバンク通信』『県北通信』の発行

『隔月刊ボランティア情報』を**600部、年6回発行**した。WEBでの情報提供も実施し紙媒体と連動するようにした。また**2019年1月から『フードバンク通信』**を発行した。「今月のSOS」記事を4ページだけ別刷りにしたものだが、好評であり、当期末の第6号からは紙面も大幅に変更し、編集もFBうつのみや内部で行えるようにした。

さらに**2020年1月からは『県北Vネット通信』**を創刊。県北のフードバンクのSOS事例を掲載した4ページ通信を発刊した。

職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。



月	号	特集記事	月	号	特集記事
3-4月	235	報告/県北学習ルーム/学生インターン受入NPO募集	9-10月	235	報告/県北：山の手子ども食堂/チャリティウォーク/学生インターン交流会/清原円卓・チャリコン/台風15号水害支援
5-6月	236	報告/子ども食堂キャラバン/子どもキャンプ/サンサンPJ総会	11-12月	244	報告/チャリティウォーク/台風19号水害・床下ボラ・足湯ボラ
7-8月	237	報告/子どもキャンプ/子どもSUNSU N：制服リサイクルバンク/定期円卓会議	1-2月	245	報告/暮らし復興支援センター/子ども冬遊び/FB炊き出し/水害DIY/とちコミ助成金

### ②「みんな崖っぶちラジオ」の放送

ラジオ局の運営を、コミュニティFM「ミヤラジ」の開局と同時に2017年3月から開始した。学生パーソナリティがゲストに話を聞き、職員等がコメントするスタイルである。取材・放送・ブログ作成までを学生が臨時職員（アルバイト）として担当した。今期は学生3人（笠原綾子、小林芽依、篠原紬）となり前年のラジオ学生も**ラジオ学生会議**などでサポートに入る体制にした。年末に「**学生ラジオパーソナリティ募集説明会**」を実施し、1月からラジオ学生が交替し4人（当真省吾、小熊優佳、山本桂輔、藤倉理子）となった。学生の中には**動画Youtubeで番組の宣伝**をする者もあらわれ、3月からはより活発な運営になっている。

「半径8キロしか聞こえない」コミュニティFMという媒体では、放送による広報（ラジオ聴取）力はあまりないかもしれないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が積み重ねることで、ユーザーが出現したり**学生自身の成長と本会関係者の変化**が見られた。

学生がもつネットワークの活性化（活動への導入）に必要な媒体であるだろう。また「**学生のアルバイト先としてのNPO**」という観点からいくつかの出演NPOを紹介した。学生にもNPOにも有意義な出会いとなった。

また、**子どもキャンプの学生チームや、とちぎコミュニティ基金の学生インターンとの相乗効果**により、かわる**学生数が15人以上**となっている。

## 【番組表】

回	月日	テーマ	ゲスト/所属	コメント、学生司会
1	4/2	県内唯一 視覚障害者の福祉作業所	佐久間孝子 (とちぎライトセンター)	徳山、篠原紬
2	4/9	司法ソーシャルワーク「法テラス」	鈴木彩葉 (法テラス)	中野、笠原綾子
3	4/16	薬物依存: やめ続けようと思ってる仲間と共に	不動 蓮 (女性ダルク)	矢野、篠原
4	4/23	CIL 栃木	斎藤康夫 (自立生活センター栃木)	矢野、小林芽依
5	4/30	「地域丸ごと崖っぷち」を考えた	塚本竜也 (トチギ環境未来基地)	塚本、篠原
6	5/7	老人ホーム+子どもの居場所	山口亮二 (子どもの居場所・アットホームきよはら)	徳山、笠原
7	5/14	「就職の北極星」を一緒に探す場	湯本尊 (とちぎ若者サポートステーション)	中野、篠原
8	5/21	月の家のボランティア	木村信夫 (「月の家」ボランティア)	矢野、笠原
9	5/28	認知症 Cafe・認知症になっても安全な街に	金澤林子 (認知症と家族の会栃木県支部)	矢野、篠原
10	6/4	FB 駅東にも拠点	曾根祐弥、伊東由晃 (FBうつのみやボランティア)	徳山、笠原
11	6/11	成績・試験なし! のフリースクール	稲葉裕一郎 (オルタの家)	中野、小林
12	6/18	通うタイプの通信制高校	山本明子 (日々輝学園・宇都宮キャンパス長)	矢野、笠原
13	6/25	宇都宮空襲	大野幹夫 (栃木の戦争と空襲を語り継ぐ会)	矢野、小林
14	7/2	シングル母に「よりそう保育」	鈴木實 (フレンドキッズ保育園)	徳山、篠原
15	7/9	LD 特化型「放課後デイ」& 学習塾	伊川夢起 (合同会社CREW)	中野、小林
16	7/16	自由ゼミ「学生のお悩み」	笠原綾子・小林芽依・篠原紬	(土崎)
17	7/23	子ども+一人暮らし: 地域食堂	砂山早苗 (地域食堂・のどかの食卓)	矢野、篠原
18	7/30	園舎がない。森の幼稚園	栗田しのぶ (森のようちえん あいうえお)	塚本、小林
19	8/6	チャリティウォークを楽しむ秘訣	佐藤綾香 (元・ラジオ学生: C W56.7参加者)	徳山、笠原
20	8/13	不登校・親・家族・本人によりそう	渡辺英子 (NPO法人風車 代表)	中野、篠原
21	8/20	「入口はフードバンク」崖っぷち教えます	小澤勇治 (とちぎVネット職員: 生活困窮者担当)	矢野、小林
22	8/27	体験的貧困/子どもキャンプから見たもの	梶北子ども食堂・木村	矢野、篠原
23	9/3	「転勤族はボランティアしよう!」	松葉友恵 (FB宇都宮・ボランティア)	徳山、篠原
24	9/10	屋カウンセラー、夜LD学習塾	大出勇 (プラネットキッズ)	中野、笠原
25	9/17	LGBT「カミングアウト」その後	みずのん (元ラジオ学生)	矢野、篠原、笠原
26	9/24	外国人の防災: 多文化防災	坂本文子 (宇大・地域デザインセンター)	矢野、笠原
27	10/1	「FBのボランティアが支えだった」	小野塚暁子 (フードバンク宇都宮・ボランティア)	徳山、小林
28	10/8	「独りにならない社会」	土橋優平 (NPO法人キーデザイン)	中野、笠原
29	10/15	インターン学生に聞く①えんがお	曾田遥 (白鷗大4年・たかはら未来基金インターン)	矢野、笠原
30	10/22	インターンシップから知るNPO	大木本舞 (職員・とちぎYMC基金/インターン担当)	矢野、小林
31	10/29	NPOが残したもの	小林綾香、岩井俊宗	塚本、篠原
32	11/5	FBクラウドファンディング実施中	曾根祐弥、伊東由晃 (FBうつのみやボランティア)	徳山、小林
33	11/12	ほんわかテラス	濱口博 (ほんわかテラス)	中野、笠原
34	11/19	インターン学生に聞く②アットホーム清原	稲川夕梨+大山 (宇大3年)	矢野、笠原
35	11/26	インターン学生に聞く③サンバの里	桂野葵 (宇大3年・たかはら未来基金インターン)	矢野、小林
36	12/3	会いに行く診療・地域医療	高橋昭彦 (ひばりクリニック)	徳山、小林
37	12/10	水害ボランティア「技術系床下・壁ボラ」	米山里奈 (チーム米山)	矢野、笠原
38	12/17	「今年も、サンタ de ラン!」	塩澤達俊 (とちぎYMCA)	矢野、篠原
39	12/24	「手仕事」小さな社会参加	大藤園子 (若年者支援機構・てしごとや)	中野、小林
40	1/7	新春: とちぎVネット代表に聞く	矢野正広 (とちぎVネット理事長)	矢野/小林、當真昇吾
41	1/14	サバイバーに聞く①不登校からの脱皮!	野澤こなつ (ひよこの家・元利用者)	中野/小林、大塚菜南
42	1/21	サバイバーに聞く②養護施設の子	吉田さん (花の家ボランティア)	矢野/篠原、藤倉理子
43	1/28	薬物依存家族の会	安高真弓 (宇大地域デザイン科学部・助教)	矢野/篠原、小熊優佳
44	2/4	FBの困窮者支援	小澤勇治 (職員: 生活困窮担当)	徳山/小林/曾根、山本
45	2/11	ひこもりサポーターの仕事	五十畑幸子 (佐野市引きこもりサポーター)	中野、當真
46	2/18	障害者の「地域で暮らしたい」を実現する	永田元治 (自立生活センター栃木)	矢野/小林、小熊
47	2/25	「オレンジサロン石蔵カフェ」	金澤林子 (認知症と家族の会栃木県支部)	矢野/篠原、大塚
48	3/3	FB「賞味期限のものはどうなる」	田代美希 (NPO法人ひまわり)	徳山、小熊
49	3/10	出資者=経営者=労働者: 協同労働	小白井加代子 (ワーカーズコープ)	中野、藤倉
50	3/17	小山/制服リサイクルバンク発足	望月農子 (城南地区学校生活応援リサイクルバンク)	矢野、山本桂輔
51	3/24	病児保育が必要な理由	山口真由美 (NPO法人リスマイリー)	矢野、當真
52	3/31	NPOバイト・学生のブラックバイト	中村明彦 (宇大3年/Vネット・Vレンジャー隊員)	小林、藤倉

## (3) 震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟・運営 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク (略称=震つな)」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。また3年前から全国災害ボランティア支援連絡会 (JVOAD) にも加盟した。

## (4) ボランティア推進団体会議（民ボラ）の運営（ボランティアとNPOに関する事業）

全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第37回ボランティア推進団体会議（民ボラ）」を7月6・7日に千葉で実施した。企画や準備のために本会職員1人を派遣し、年度末までに3回の会議に参加した。当期(2020)は7月に大阪の予定だが、コロナの影響で中止した。

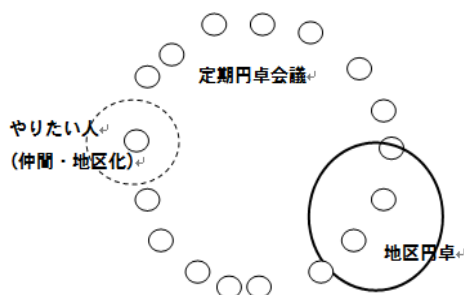
## E. 【とちぎコミュニティ基金】

総評：3年前から職員を増員して「とちぎコミュニティ基金」の運営強化をした。2019年度は「台風19号・がんばろう栃木！募金」を実施し、380万円の寄付があり、3団体に120万円の助成を行った。また3期続けている「子どもの貧困撃退円卓会議＝子どもSUNSUNプロジェクト」は、台風19号の救援活動の影響と新型コロナの影響で中止・延期がつづいて寄付集めと事業立ち上げが本格化しなかった。子どもSUNSUNプロジェクトは853万円の寄付（うち、サンタdeラン&ウォーク450万円）があった。冠基金「たかはら子ども未来基金」は学生インターン助成として第3回目の配分を行った。学生・NPOとの報告会と講座を実施した。学生が編集した通信『たかはら日和』を2回発行した。

「定期円卓会議」を年4回開催します。仲間を増やそう！実現しよう！

- 「支援者/組織」と「やりたい人/団体」の出会い・情報・アイデア・企ての場
- 地域のなかで「核となるスペース」を定期円卓会議で出す。「不足していること」をテーブルに出す⇒やり方を皆で考える。

第2土曜日9:30～ 6/17、8/11、11/10、2/9 座長：廣瀬隆人さん（元宇大教授）  
次回会場は：8/11(土)は宇都宮中央生涯学習センター



## (1) メイン基金の運営（NPOの活動資金の援助事業）

### ① 子どもSUNSUNプロジェクト＝子どもの貧困撃退円卓会議(宇都宮)

#### 【経緯と今期の報告】

2017年3月、地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、2017年10月に調査報告を、2018年3月に実施計画を発表した。

#### (2018年度)

目標数の設定と資源集め事業の立ち上げを行った。宇都宮市内の各中学校区にこども食堂、無料学習支援、居場所、フードバンクの支援拠点セットをつくることを目標とした。そのために宇都宮の概ね中学校区ごとに「地区円卓会議」を開催していく計画とした。また、全体の課題を解決する場として「定期円卓会議」を年4回開催した。9月には「清原地区子どもの貧困撃退・円卓会議」が発足し、とちぎYMCAを中心に、地区内の社会福祉施設、自治会、民生委員児童委員等とともに地域ぐるみの活動になった。

また2018年度は市外への波及として「大田原子どもの貧困撃退円卓会議」を開催し、調査やファンドレイジング講座を

開催した。

## (2019 年度)

総会を5月26日に「地域養護について」湯浅誠さんを招き実施した。第2部からは星の家と共催でシンポジウムを開催した。また助成金額を積算するため助成金申請書/ファンドレイジング計画書の公募を行った。

●定期円卓会議：8月18日に「子ども食堂をもっと増やすには」のテーマでワークショップを実施し20人が参加した。定期円卓は3回の予定だったが水害、コロナで実施できなかった。

●地区円卓会議：清原地区円卓会議では子ども食堂キャラバンを開始し、9月には「子ども食堂チャリティコンサート」を地区で実施し100万円の寄付を集めている。宝木地区でも宝木こども未来応援隊が医療生協、村井クリニック、老人ホームの連携で発足し、元デーサービス施設で子ども食堂が定期的で開催されるようになった。

●ファンドレイジング：12月のサンタ de ラン&ウォークや通年の子どもSUNSUNメイト(月額寄付)で総額8,462,274円の寄付を集めた。このうち11団体に6,420,955円を助成した。台風19号の被災による県内の救援活動の最中でのサンタ de ランとなったが、昨年並みの寄付額(458万円)となり特にステージ参加者が充実した。イベントは盛況であった。

寄付の手法もイベント、クレジットカード(月額定期寄付)、子どもSUNSUNプロジェクト発起人(大口寄付)と、企業向けの寄付つき商品があるが、発起人寄付と寄付月商品は拡大できなかった。

## 【成果と課題】

### A：子ども食堂、無料学習支援等の設立

子ども食堂、無料学習支援とも増加はなかった。「子ども食堂が」増えない理由を定期円卓会議で検討したが、水害・コロナ等が続き方策の実施に至らなかった。子ども食堂は活動開始に躊躇していて、一緒に設立までのハードルを乗り越えていくようなサポートが必要である。無料学習支援は、ボランティアの育成など戦略的な人材発掘・育成が必要である。原因は、サンサンPJ全体として対応ができず、単独の団体(担当者)が孤立したまま各々団体の事業を進めたことによる情報共有の不足が原因である。

一方で、制服リサイクルバンクは、市内での拡大はなかったが小山での取り組みが始まった。県内3例目である。

居場所/もうひとつの家は、2018年に宇都宮市が2か所を清原地区に設置した。この事業は県単独事業(市単独)であったが、来期は国からの補助金が入り800万円から1300万円の補助金になった。国が居場所事業に国費を使い社会福祉制度として認めてきたといえる成果である。

一方で訪問型病児保育は、定期円卓会議で取り上げたが、災害とコロナで2回延期となった。利用料に補助金がないため低所得の一人親が利用できないことが課題である。

また、フードバンクは食品受贈量の拡大のために倉庫・車両などの設備が必要だが、10月に宇都宮駅東地区に倉庫を確保、1月の被災地フードバンク開設を機に車両も確保することができた。

### B：寄付金の募集と配分

寄付は主に寄付イベント、個人寄付、企業寄付の3つである。個人寄付=クレジットカードによる月額定額寄付(子どもSUNSUNメイト)は年間100万円、寄付イベント(サンタでdeラン)で400万円を集めた。

寄付の募集の前提となる数字を出すために助成金申請書を提出してもらい目標としたが、助成金審査会も災害・コロナで中断し配分金額が確定していない。また、大口寄付(発起人寄付)も、マンスリーサポーター(SUNSUNメイト)の拡大もなかった。一種のブームが終わり、広報・営業戦略の立て直しが必要である。寄付つき商品も拡大がなく、とちぎTVの寄付広告も終了した。

### C：催事・講座・会議の実施日・回数

<p>■総会 5/26：子どもサンサンPJ総会(150人) (基調講演 湯浅誠さん「みんなで何とかする、地域養護」+シンポジウム)</p> <p>■定期円卓会議(1回) 8/18 子ども食堂・ワークショップ(25人参加)</p> <p>■地区円卓会議(清原地区、宝木地区) 5/18(土)清原ポピーまつり「子ども食堂・みんなの食堂キャラバン」 9/16(月)清原円卓会議チャリティコンサート</p>	<p>■広報誌(1回発行) 「サンサンPJ+「ンタ通信」発行1回(4/7:第2号発行)</p> <p>■月例会(6回) 4/11 月例会(矢野、徳山、広瀬、塩澤、山口、宮本、星の家/木村信・福田、並木) 6/21 月例会(山口、大久保、宮本、徳山、矢野) 7/18 月例会(矢野、宮本、徳山) 10/25 月例会(塩澤、山口、荻津、矢野) 12/27 月例会(矢・徳、塩澤、荻津、山口、中野、並木) 1/23 月例会(矢野、塩澤、荻津、山口、宮本)</p> <p>■寄付つき商品、寄付付き自販機(6か所) やきとり竜鳳、藤井産業、済生会宇都宮病院)</p>
---	--

## ②サンタ de ラン&ウォークの実施)

12/22 サンタ de ラン実施(300人参加) 4,581,830円

■春のボランティア&実行委員 説明会(1回) 5/17(30人)  
当日ボランティア説明会(2回) 12/4(15人)、12/7(15人)  
ポスター張り(2回) 11/10(8人)、11/16(5人)

### ■サンタ・事前イベント(15回)

12/1(宇都宮)、12/8(小山)、12/14(那須塩原)  
全体企画/映画上映会「隣る人」 合計65人 55,600円  
10/13 リスマイリー企画「泊まり de 飲み会」台風で中止に  
10/27 だいじょうぶ企画「ピクニック」40人 52,500円  
11/23 リスマイリー&星の家企画「お寺 de 合コン」20人 40,000円  
11/2 参加者企画「ひろやくんとわたるちゃん Live」不明  
12/1 とちぎYMCA企画「サンタ de 街頭募金」不明  
12/7~20 リスマイリー企画「チャリティバザー」不明  
12/7,8 V&未来基地企画「サンタ de 街頭募金」52,093円  
12/7 県北Vネット企画「サンタ de 街頭募金」50,247円  
12/11 参加者企画「チャリティ飲み会 in 鹿沼」不明  
12/15 トチギ環境未来基地「森ノキッチン」不明  
12/20 県北Vネット企画「チャリティポーリング」不明

### ■実行委員会 (16回)

3/22(8人)、4/18(9人)、6/12(21人)、7/10(23人)、8/7(15人)、9/11(12人)、10/9(10人)、10/23(17人)、11/5(16人)、11/13(14人)、11/27(22人)、12/11(18人)、1/15(16人)、2/27(12人)

## (2)冠基金の運営 (NPOの育成事業)

### ①冠基金「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王㈱の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第13回目の助成金配分である。審査は12月5日の第1次審査で6団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により3団体にしぼる方法とした。メイン助成は20万円が1団体、10万円が2団体、サブ助成各団体3万円の総額49万円である。応募は台風19号災害の影響もあり少なく、9団体だった。3月14日に贈呈式を実施する予定だったが、コロナ感染のため中止。

### 栃木県内のNPO・市民活動団体を応援

—2019年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区)— 【とちぎコミュニティファンド・冠ファンド助成】

花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。



<p><b>1、助成内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成総額：49万円 ・助成団体数：6団体</li> <li>・助成金額/メイン助成：20万円（1団体）10万円（2団体）サブ助成：3万円（3団体）</li> <li>・1次選考（書類審査）を通過した団体のうち2次選考にもれた3団体にサブ助成として各3万円</li> </ul> <p><b>2、選考までの流れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎応募受付開始：10月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着</li> <li>◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により6団体を選出。</li> <li>◎二次選考（投票選考）：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。</li> <li>◎贈呈式・レセプション：3月2日。1次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。</li> <li>◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔ご報告ください。</li> </ul> <p><b>3、応募団体の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体（法人格の有無は問わない）</li> <li>②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと（1年お休みのあとの応募は可）。</li> <li>※とちぎコミュニティ基金の「NPO データバンク（CANPAN）」への登録は必須ではありません。</li> </ul>	<p><b>4、応募・問い合わせ先</b></p> <p>とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市埴田 2-5-1 電話 028-622-0021 FAX028-623-6036 tochicom.org</p> <p><b>■選考結果</b></p> <p>◎<b>メイン助成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>壬生町おもちゃ博物館おもちゃ病院(20万円)</li> <li>宇都宮共和大学子育て支援研究センター内 Tiny (10万円)</li> <li>NPO法人セブナーサリー (10万円)</li> </ul> <p>◎<b>サブ助成 (各3万円)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人子ども食堂ノエル</li> <li>もわか環境パートナーシップ会議</li> <li>NPO 法人ナルク栃木「とちの実会」</li> </ul> <p><b>■年間日程</b></p> <p>8/25(日)花王助成金の説明会（こらぼーれもおか主催）</p> <p>9/27(金) 花王助成の説明会（まちびあ主催）</p> <p>12/5(木)花王助成審査会</p> <p>3/14(土)花王ハートポケット倶楽部地域助成贈呈式+たかはら子ども未来基金インターン報告会」だったが中止になった。</p>
--	--

## ②冠基金「たかはら子ども未来基金」

2017年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、今年は特に学生インターン部門を中心に実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPOの活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った（2017年から10年間継続して寄付を受け、助成を行う予定）。

**学生インターン部門**には6団体の応募があり4団体に助成した。学生は8人の申込があり5人に助成した。なお、今年は1団体（とちぎYMCA）が特別助成枠で2人を受け入れた。**助成部門**の応募は継続助成のみ2団体の応募があり審査中。

<p align="center"><b>とちぎコミュニティ基金・冠基金 [たかはら子ども未来基金]</b> (申込締切) ①助成部門：2020/3/31 ②学生インターン部門：団体2019/5/31 学生2018/7/10</p>	
<p>1. たかはら子ども未来基金とは?</p> <p>たかはら子ども未来基金とは、子どもや若者の未来を応援する目的で、平成29年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設され、特に栃木県北地域の子どもの若者を支えていくこと</p> <p>ます。</p> <p>②助成部門は、新規の応募は受け付けず、2年目以降の継続のみとします。(要項は別紙です)</p> <p>3. 対象となる団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの食事と居場所を支える活動をする団体 例)こども食堂の運営支援、新規設立支援。</li> <li>② 子どもの学習を支える活動をする団体 例)無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。</li> <li>③ 子どもの体験を支える活動をする団体 例)自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。</li> <li>④ 若者の社会参加や就労、生活を支える活動をする団体 例)若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。</li> <li>⑤ その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支える団体 例)環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。</li> </ul> <p>(1)助成する団体の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない)</li> <li>・県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。</li> <li>・対象となる市町： 矢板市、塩谷町、高根沢町、さくら市、大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町、那須烏山市</li> </ul>	<p>2. 2019年度の助成事業</p> <p>①学生インターン助成は、若者とNPOや市民活動団体が共に成長できる仕組みを作ることを目的としています。学生が一定期間、NPOや市民活動団体にスタッフ見習いとして研修すること（＝インターンシップ）の活動を応援します。学生に一定期間、奨励金を渡し活動することによって、若者の積極的な参加を促し、若者世代の継続的な応援者を増やすことを目標とします。学生の中には、奨学金の事情やアルバイトのために、ボランティア活動ができない学生がおり、そのような学生を応援する目的でこの部門が設立されました。また、今年度は学生を受け入れることで、日常業務のサポートだけでなく、特に既存の事業の発展や新規の事業の立ち上げを行える団体に助成し</p> <p>《助成額について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成額：学生に100,000円をお渡しし、団体にも100,000円をお渡しします。</li> <li>*未来の担い手であるインターンシップの学生を育成していただく目的で、金額が変わりました。</li> <li>・助成総額：830,000円(インターン生4人分と団体4団体分)</li> <li>*1団体に2人のインターン生を受け入れていただくこともあります。</li> </ul> <p>《審査と、団体と学生のマッチングの方法について》</p> <p>今年度は、最大でインターン生4人分と団体4団体分に対して助成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①第一次審査（団体の審査）：審査委員会で審査を行い、選考基準に満たしている団体には、4～6団体程度までに、結果通知をお送りします。(6月上旬)</li> <li>②第二次審査（学生の審査）：審査委員会で審査を行い、選考基準に満たしている学生はマッチングに進みます。</li> <li>③下記の手順で、団体と学生のマッチングを行います。(7月10日以降、学生申込の締切後)</li> </ul> <p>A 団体にすでに関わっている学生がおり、このインターンシップの仕組みを活用したい場合は、そのマッチングを優先します。(学生にも申込みフォームから申込みいただきます)</p> <p>B 団体に候補となる学生がおらず、また、学生が申込み時点で、その団体を希望している場合、このマッチングは成立となります。 C 団体に候補となる学生がおらず、学生の希望がなかった場合、今回はマッチング不成立となります。</p>

<p>宇都宮市、上三川町、壬生町、日光市、鹿沼市、芳賀町、市貝町、益子町、茂木町、真岡市 (該当する地域に事務所がある団体か、地域で活動している団体に助成する)</p> <p><b>(2)選考基準</b> 前出の条件を満たす団体の中から、以下の選考基準で選考いたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体</li> <li>2. 地域で必要とされ、一般の人に開かれて参加できる活動であること</li> <li>3. 助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体であること</li> <li>4. 学生のインターンシップを受け入れる体制が整っている団体であること</li> <li>5. インターンシップの学生と一緒に、既存の事業の発展や新規の事業の立ち上げを行える団体であること</li> </ol> <p>4. 学生インターン部門の内容 ・学生のインターンシップ(研修)の受入を希望する団体と、NPO 活動に関心の高い学生をマッチングします。</p> <p>(内容) ・6ヶ月間 24日ほど(1ヶ月4日程度×6ヶ月)、団体の必要な業務や、ボランティア活動を行っていただきます。 ・学生インターン生は、1団体につき、1人または2人までを助成します。 ・団体からの推薦者となる学生がいる場合は、その学生を優先します。</p>	<p>④第三次審査(マッチング): マッチングを行った上で、助成限度である4人の学生以上がマッチング成立した場合、審査委員会を通して審査を行い、最大4人の学生、4団体に最終結果通知をお送りします。</p> <p>*注意事項 ①の第一次審査の時点で、4団体以上が選考基準に満たしている場合、②と③のマッチングまでに行い、④の最終結果通知の時点で、落選となることもあります。あらかじめご了承ください。</p> <p><b>■選考結果</b> <b>◎学生インターン部門</b> ・一般社団法人 えんがお: 會田未来さん(白鷺大学) ・NPO 法人オオタカ保護基金サシバの里自然学校: 桂野葵さん(宇都宮大学) ・たかねざわぼかぼか食堂: 岡浜陸さん(白鷺大学) ・子どもの居場所アットホームきよはら: 稲川夕梨さん(宇都宮大学) ・子どもの居場所アットホームきよはら: 大山春香さん(宇都宮大学)</p> <p><b>◎助成部門(2年目以上の継続助成のみ)</b> ・審査中</p>
--	---

### ③冠基金「とちぎゆめ基金」

今年度は募集要項の内容を変えて募集したが、台風19号災害のための募金を急遽立ち上げたことなどのため、集まらなかった。

<p style="text-align: center;">2020とちぎゆめ基金「持続可能な地域づくり・SDG s 助成」 締切 12/25</p>	
<p>1、主旨 この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。(1年目は調査助成のみ)</p> <p>国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール(SDG s)」達成は、2030年。複数の目標を地域のみならず取り組む協働事業の設計(調査)と実施(継続するための仕掛けづくり)のスタートを支援します。みんなで10年取り組みれば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ</p> <p>3、伴走支援 必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援を行います。</p> <p>4、助成期間2020年4月1日～2021年3月31日</p> <p>5、助成金額・件数 助成総額50万円 (1)調査助成: 1事業10～15万円×3団体程度 (2)継続するための仕掛けづくり助成(2年目以降): 10～20万円×2団体程度 ※今年度は(1)調査助成のみ募集</p> <p>6、報告書・成果物 調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。 福祉施設、学校、住民組織等(※営利・非営利、法人格の有無問わず) (2)応募方法: ①応募申請書(所定の様式)に必要事項を記入の上、郵送かメー</p>	<p>の波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。</p> <p>2、対象となる事業・条件 ・3～5団体以上の協働での応募であること。 ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取組む内容であること。</p> <p>7、応募について (1)応募資格: 栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会ルでお送りください。 (2)応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード (3)応募締切: 2019年12月25日(水) (4)選考方法と選考基準 ①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。 ②複数団体による応募を優先します。 ③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会(全体)の持続可能性(SDG s)への促しを進めるもの。 ④広義の福祉を中心とした応募を優先します。 ⑤波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していただけるもの。 ⑥選考結果の発表: 2020年1月末、文書で連絡。</p>

### ④「がんばろう栃木! 募金」台風19号復興ボランティア支援

10月12日の台風19号、その後の大雨災害による被災地の災害支援のための寄付を募り、3,785,458円が集まった。この集まった寄付を財源にして、がんばろう栃木! 募金助成を行い、のべ4団体に助成した。

**とちぎコミュニティ基金・がんばろう栃木！募金**  
第1回締切 11/15-11/30 第2回締切

<p><b>1. 目的</b> 2019年10月に発生した台風19号による被災地で災害支援、復興支援の活動を行うボランティア団体、NPO、災害ボランティアセンターなどに助成します。ボランティアは10万人必要とされています。みんなで取り組むことで、1日も早い復興のために解決していくことを応援します。</p> <p><b>2. 対象となる事業・案件</b> (1) 対象事業 下記の活動などに対して、助成します。 ・栃木県内の災害復旧（片付け、ボラセンサポート、炊き出し、足湯など）に取り組む活動 ・栃木県内の災害復興（農地支援、居場所支援、お茶会、保育や託児、在宅避難者支援、地域福祉、コミュニティ形成、被災者のしごとづくりなど）に取り組む活動 ・ボランティアを県内外から集める仕組みをつくり、コーディネート活動 ・物資マッチングや情報発信、ネットワークづくりなどに取り組む活動</p> <p>(2) 対象となる経費 ・人件費を含む活動に必要な経費 *人件費は助成額の4割を上限とする。なお、営利組織の場合の人件費は対象になりません。</p> <p><b>3. 助成期間</b> 第1回 2019年10月20日～2020年3月31日 *今回は災害発生後からを助成期間とします。すでに実施済みの活動への資金充当も可能です。</p> <p><b>4. 助成金額・件数</b> 第1回 助成総額50万円（1団体10～20万円×最大5団体） *今後も集まった募金額に応じて、継続して募集を行います。</p> <p><b>5. 報告・成果</b> 指定の様式による報告書をご提出していただきます。また、チラシや成果物などありましたら、あわせてご提出をお願いします。</p> <p><b>6. 応募について</b> (1) 応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（非営利、営利、法人格の有無を問わない、個人での申請は不可）</p>	<p>(2) 応募方法：指定の応募申請書に必要事項を記入の上、郵送かメールでお送り下さい。 (3) 助成金の使途の書き方について： ①項目→ 人件費、旅費交通費、印刷費、消耗品費、謝金 *営利組織の場合の人件費は対象になりません。 ②内訳→ 具体的な算出根拠を記入 例：ブルーシート 3枚×1,500円＝4,500円 (4) 応募締め切り：2019年11月30日（土） *郵便の場合、消印有効 (5) 選考方法と選考基準 ・書類及び必要に応じてヒアリングにより、「がんばろう栃木！募金」選考委員会で決定します。 (選考基準) ・波及効果があり、ほかの地域や後続団体のモデルとなる先駆的な取り組みであるか。 ・被災地や被災者のニーズを反映して、必要とされる取り組みであるか。 ・一般の人に開かれ、参加できる取り組みであるか。 ・助成金の使途が適切であるか。</p> <p><b>7. 選考までの流れ</b> ・第1回募集 11月15日～11月30日 ・審査、結果通知 12月中旬 ・助成金振込 12月下旬～1月上旬 ・助成期間 10月20日～2020年3月31日 ・活動報告期限 2020年4月30日（予定） ・活動報告会 2020年夏ごろ（予定）</p> <p><b>■選考結果</b> ①NPO法人トチギ環境未来基地「なすから暮らし復興支援センター運営事業」 ¥140,000 + ¥300,000 ②NPO法人ハイジ「災害から育むお互いさまの心プロジェクト」 ¥300,000 ③吹上地区各種団体連絡協議会「吹上地区災害ボランティア」 ¥139,628</p>
---	--

## F. 【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

2019年度は、常時、事務所にスタッフやボランティアがいることにより、生活困窮者などの相談対応や子ども達の支援、広い世代の地域交流の場として来所者数を増加することができた。

子ども達の支援としては、夏休み期間中に学習ルーム開催日を増やし対応した。また、学生ボランティアが中心となり企画したヤングボランティアカフェも動き出した。

事務局としては‘県北運営会議’を毎月開催することができた。[県北会員の集い]については1回開催できたが、会員活動の活性化や、会員増加などのアクションはあまりできず、**自主財源（会費・寄付）の確保は前年度と同じく未達成**となった。台風19号の災害により、足湯ボランティアを被災地に派遣できたが職員の負担が増えたことにより会員を増やすことや、寄付を増やすということの活動は停滞してしまった。運営するボランティア不足ということが大きな原因の一つではあるが、体制はできつつあった。年度末に新規の拠点が決まり新たな活動に向けてのハードウェアも整備できつつある。

2019年	受入 件数	個数	重量kg	支援 件数	個数	重量kg
4月	20	137	184.9	48	345	250.8
5月	15	116	152.1	40	222	271.65
6月	23	407	254.1	31	232	174.8
7月	17	130	231.1	39	247	278.3
8月	32	755	296.6	24	126	122.1
9月	34	355	705.4	36	390	426.3
10月	53	474	569.8	39	450	506.3
11月	31	252	285.2	29	228	209.6
12月	39	297	233.3	25	235	198.0
1月	32	219	232.3	25	262	232.8
2月	28	700	693.7	27	234	263.8
3月	1	4	.6	41	651	920.2
<b>合計</b>	<b>325</b>	<b>3,846</b>	<b>3,839</b>	<b>404</b>	<b>3,622</b>	<b>3,855</b>
月平均	27	321	92.3	100	94	97

## (1)生活困窮者支援

### ①フードバンク大田原の活動

フードバンク大田原では、今年度**3.8トンの食料を集め**、そのうち**3.8トン**を生活困窮者に届けることができた。

広報活動として、講師派遣を3回（宇都宮大学、那須清峰高校、西原小学校）、また、世代間交流喫茶いってみっけと連携し大田原市や那須塩原市で計12回のイベントに参加しPRした。その効果もあり個人・企業・団体からの食品提供が増加となった。支援件数は33.6件/月（前年比-3件）、提供物量は331kg/月（前年比+18kg）、支援先は那須塩原市が多い。困窮者の相談は社会福祉協議会を通じて寄せられるケースが多いが、行政機関からの紹介や**直接来所するケースも増加**した。ベテランボランティアの活躍により、年々協力の輪が広がり、支援の量も増加している。

引き続き、フードバンク協力者の輪を広げながら、困窮者への食糧支援を継続していく。



## (2)子どもの貧困対策

子ども食堂の運営の加え、学習支援の機能や体験活動も付加し、子どもたちの生活と学びを支える。

### ①「やまのてこども食堂」の運営

やまのてこども食堂は毎週**金曜日18~20時**に開催した。**年間50回、1061人**(子ども286人、大人775人)が利用した。子どもたちの安心できる食事の場、居場所として、また、様々な世代の交流の機会としても利用いただいている。利用者の中には非常に生活困窮している子もいて、必要に応じてフードバンクと連携し支援を行った。

運営面では毎回2~3人のボランティアで調理・運営を行い、旬の食材を取り入れ手間暇をかけ一つ一つ手作りし、パンラスの取れた食事を提供している。継続して開催することで1年前は小食でほとんど残していた子どもが、残さずきれいに食べるようになっておかわりもするようになった。また、女子はボランティアからおかずの作り方を教わったり等、**食育の場**にもなっている。スタッフとボランティアは子どもたちの成長を日々直接感じる事ができている。

地域の方々からの食材の差し入れも増えてきたり、近隣の企業にも、こども食堂の時間帯は駐車場を無料で利用させていただいたりと協力をいただいている。また、子どもと子ども食堂をつなぐという点では、スクールソーシャルワーカー、**社会福祉協議会、学校の先生など様々な方との連携**をつくることができた。下野新聞や社協だよりなどにも紹介されたことで、認知度も高まってきた。しかし、ボランティアに関しては、**慢性的な人不足**が続いているため1人ひとりの負担が増えて

いるのが現状であり、チラシ配布や社会福祉協議会便り・新聞等でボランティア募集をしているが夜の時間帯が夜という事もあり難しい。今後、安定した**ボランティア確保**が課題である。

## ②無料学習支援の実施

### (やまのて学習ルーム)

2017年12月から**毎週金曜日15～20時に開催している**。今期は**64回、185人**が利用した。子ども食堂を同日に行うことで、宿題が終わり18時になると1階に降りてきて、子ども食堂でご飯を食べる流れとなっている。また食べ終わると2階に上がりボランティアとおしゃべりをしたりゲームをしたりと元気いっぱい過ごしている。

### (やまのてスマイルルーム)

2019年2月から**学校を休みがちな子どもたちや、閉じこもりがちな親子を対象に、毎週木曜日9時半～19時半に開催した**。やまのて学習ルームと両方を利用している子もいる。

相談や紹介は行政機関やスクールソーシャルワーカーとフードバンク大田原からが多く、それぞれと連携しながら支援を行う。昼食・夕食を提供しているが夕食は、学校給食や社員食堂、社会福祉施設等の食堂を運営する**イトランド㈱**と**ナスココ㈱**の協力で、**食事を無償提供**いただいている。同社は以前から社会貢献をしたいという想いがあり、今回の食事提供について快諾いただいた。

夕食を提供していただけることで**スタッフやボランティアが子どもたちと関われる時間を確保**できている。おしゃべりをしたり、勉強をしたり、本を読んだりと過ごし、17:30からみんな一緒にご飯を食べるという流れで運営している。

学習支援&居場所の運営ボランティアは元塾講師の方や国際医療福祉大学の学生が中心となって行っている。

## 3. 事業報告【その他の事業】

その他の事業は実施しなかった。

## 4. 財政・組織運営

### (1)会員

会員数は**518人(団体21、支持198、賛助299)**、会費は**191万円**になった。会員の減少傾向は治まらない。**長期の低落傾向が続いている**。会費収入は昨年より**-25万円**である。

通常の会員拡大の方策は、①団体会員などの新規会員の拡大、②現会員の継続の2つである。会費の振り込み手続きが面倒であることも予想され、「**つつい未納**」になることが多い。**クレジットカード**での振り込み(ホームページから手続き)、会員総会、Vネットの集い等で**現金で納入**できることも周知している。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く、声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない、会員になる目的をもっと打ち出せるようにしなければならない。

対応策として新型コロナウイルスの影響もあり従来の人を集める手法に代わる活動を打ち出し、ネット環境を使い接点を増やすことや、会員への電話かけでのコミュニケーション方法を見直している。また、フードバンクや寄付ハイクなど**ボランティアやファンレイジングと連動した活動**にできるように事業を変えている。

### (2)寄付

**年間寄付額は1,960万円**になった(前期1,844万円)。今期は災害等の臨時の寄付が多かった。本体への寄付より**ちコミ**への寄付が**275万円減少**した。SUNSUNプロジェクトの活動が災害対応で停滞した分、災害による寄付金が植え

たので全体では増えることになった。

とちコミの冠基金「**たかはら子ども未来基金**」に継続的に拠出する寄付（毎年100万円）があった。

また、NPO法人会計基準によるボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。今期は**ボランティア活動評価益は245万円**となり前期より94万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

① 一般寄付	通常の寄付（災害救援ベンダーの寄付も含む）	銀行引落し 年1回とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる
② 年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日～1月末まで		
③ 災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④ サンクスVクラブ	Vネット“後援会”寄付金(後述)		
⑤ フードバンク寄付	フードバンク宇都宮に対する寄付	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる	
⑥ プレミアム寄付コース	A：SOSを出している人の人生寄り添いコース：50,000円 B：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000円		
⑦ とちぎコミュニティ基金	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、 本会特別会計で預かっている ①とちコミ寄付 ②SUNSUNプロジェクト寄付		

### (3) 事業収入

講師派遣事業は昨年度並み。受託事業収入も647万円と若干増えた。また助成金も、災害(639万)FB(49.7万円)など4つの助成金をうけることができた。台風による災害が発生したのと、一部助成金を獲得する体制ができたことが要因である。

バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。大局的には社会的苦難な状況の時こそ存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなど、中期計画に沿った努力が必要である。

### (4) 組織：会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は6月2日に実施した。

定期会員総会は137人出席（うち委任状118人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5月25日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

### (6) 理事会（役員会）

理事会を3回開催した。

月日	議題/出席者
5/25 監査	菅又、趙
5/15 第1回理事会	① 2019年度事業報告・決算について、 矢野、塚本た、中野、徳山、二見、藤田、鈴木、大金、柴田、岩井、大木本
1/25 第2回理事会	① 2019年度事業報告、決算予測について ② 中期計画会議について ③ 労働審判について 矢野、塚本た、中野、藤田、大金、柴田、徳山、大木本、飯島、
3/28 第3回理事会	① 2020事業計画・予算について ③ 矢野、徳山、大金、中野、塚本、藤田、大木本、廣瀬、飯島

### (7) 職員会議・運営委員会・ケース検討会

第2・4水曜10時から、職員会議を毎月2回開催した。うち1回は運営委員会とした。総合相談支援センター運営の情報共有と事業執行についての会議をおこなった。ケース検討会は第1・第3水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。

●運営委員会・職員会議 4/10、4/24、5/8、5/29、6/12、7/17、7/24、8/21、9/4、9/11、10/9、10/23、11/13、11/27、12/11、12/25、1/8、1/22、2/12、2/26、3/12、3/26
●ケース検討会：4/3、4/17、5/2、5/15、6/5、6/26、7/10、7/24、8/7、8/28、9/4、9/18、10/2、10/16、10/30、11/6、11/21、1/30、3/6

## (8) 役員、職員、Vネットサポーターの研修など

前記は、理事が一部担当制になったことで研修システムが利用されだしたが、今期も民ボラについてはこの研修規定を使って会議・研修に行っている。(交通費・参加費の7割を本会が負担)。民ボラ、ファンドレイジング大会、に参加させた。また、役員・職員・ボランティアの懇親を目的に2回の交流会(飲み会)を行った。

8/24/サマーパーティ (32人) 12月/サンタ de ラン打上&忘年会(25人)

## (10) サンクスVクラブ(後援会)

サンクスVクラブは、年間2万円以上の寄付をいただけること、クラブ員の親睦のため年に2回の定例会(親睦会)を行うことの2項目だけを条件にした「ゆるやかな」つながりが持てる会である。今期は、懇親会は1回実施した。

<p><b>サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日</b>          (第1条) 本会はサンクスVクラブと称する。          (第2条) 本会の事務局を宇都宮市埴田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。          (第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。          (第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。</p>	<p>1. 寄付に関すること          2. クラブ員の親睦に関すること          3. その他、目的達成に関すること。          (第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。          (第6条) 本会に次の役員を置く。          [1] 代表 1名          [2] 副代表1名以上</p>	<p>[3] 会計 1名          (第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。          (第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。  <b>役員名簿</b>          代表：高橋昭彦さん 副代表：高木敏江さん 会計&amp;事務局：菊池順子</p>
<p>3/22 サンクスVクラブ (14人)</p>		

## (11) 委員会・チームの会議、ボランティアの活動日

### ①新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱

…毎週水曜日 13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在3~4人。

### ② フードバンク会議

…毎週木曜15:00から会議。3月からは14:00から会議となった。(詳細は、FBで報告)

## (12) 中期計画会議

### ①中期計画 (2020年度~2023年)

3年に一度中期計画会議を実施して昨年4回の会議を開いて中期計画を策定した。会議の参加者は職員及びスタッフ的なボランティアを中心に集めて意見やアイデアをいただき職員により最終的にまとめた。

3月にはお披露目会を実施した。

月日	議題/出席者
6/5 第1回中期計画会議	矢野、土崎、木下、伊東、曾根、小澤、大木本、柴田、宮坂、小野塚、徳山
7/20 第2回中期計画会議	矢野、大木本、山本、塩澤、菊池、徳山、宮坂、
7/27 第3回中期計画会議	矢野、大木音、小澤、君島、菊池、松葉、塩澤、矢野浩美、徳山
9/7 第4回中期計画会議	矢野、大木本、菊池、塩澤、山本、土崎、徳山
3/22 中期計画お披露目会	15名

